

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育内容環境 Content of childcare (environment)		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教育原理 教育実習事前事後指導等の教職科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小林研介	非常勤講師室	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
幼児期の教育は環境による教育である。その原理、原則の理解を図ると同時に、実際の環境のもつ意味を、子どもの成長との関わりの中で理解していく。また領域としての「環境」と「環境を整える」といった時の「環境」の違いを理解する。				
授業の目標				
①幼児期の教育における環境の重要性を理解し、幼稚園教諭として適切な環境の構成が図れるようにする。 ②保育者自身が環境であることを自覚し、環境としての保育者の適切なかわりが取れるようにする				
授業の方法				
講義 ビデオ視聴観察 事例研究 グループディスカッション				
学習の成果(学習成果)				
①幼児教育が環境による教育であることが説明できる。 ②発達の時期ごとに適切な環境を構成できる ③領域「環境」と他の領域の関係が説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	幼児期の教育の特徴①			
第2回目	幼児期の教育の特徴②			
第3回目	領域の考え方			
第4回目	領域「環境」と「環境による教育」の意味			
第5回目	こころの安定のための環境①			
第6回目	こころの安定のための環境②			

第7回目	生活の場としての環境①	
第8回目	生活の場としての環境②	
第9回目	遊びを発展させる環境①	
第10回目	遊びを発展させる環境②	
第11回目	自然と遊びの関係①	
第12回目	自然と遊びの関係②	
第13回目	家庭環境と子どもの発達	
第14回目	地域環境と子どもの発達 <試験>	
第15回目	地球規模で子どもの置かれた環境を考える	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	出席を最重視する。私語、居眠り厳禁。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	講義内容に対する理解がなされ、的確な回答が記述されているか。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 保育環境プランニングブック - 3, 4, 5歳児の保育環境- (チャイルド本社)		
参考図書 おかあさんに知って欲しい 幼稚園の四季 (鈴木出版)		
参考図書 幼稚園教育要領		
履修上の留意点・ルール		
私語が多い場合は退席させるときもあり。		